

Japanese American について

勝馬 悠貴

Japanese American (日系アメリカ人) とは、日本にルーツがあり移民によってアメリカ合衆国に渡った人々とその子孫のことをいいます。私達は今回「Go for broke monument」と「Japanese American Museum」を訪ねました。私は中学生のころから日本の歴史や世界の歴史にとっても関心がありましたので、「Go for broke monument」と「Japanese American museum」に行くのを楽しみにしていました。実際に行ってみて特に「Japanese American museum」では自分が知っていた日系人のことももちろんですが、知らないことが多くありました。そして、新たに知ったことは私の想像をはるかに超えるものでした。

まず、日系人の強制収容のことです。強制収容命令の対象者の日系人約7割が二世（アメリカ生まれの市民権を持つ日系人）であったことにはとても驚きました。なぜ、アメリカの市民である人が政府によって強制的に財産を捨て立ち退かなければならなかったのか。このことは、アメリカの歴史上でも暗黒な時代とされています。なぜなら、アメリカ政府が自国の憲法に違反してまでアメリカ生まれアメリカ育ちの真のアメリカ市民を強制収容したからです。私はそこまで深刻なことだとは知らなくてとても驚きました。そして、アメリカ自身がこのことについて政治指導者の失策と認め、収容されていた日系人に謝罪したそうです。

次に、私が衝撃を受けたのは強制収容所での日系人の生活や扱いです。強制収容所は空き地や競馬場を急ごしらえで建てた仮設住宅でした。そこでは、有刺鉄線に囲まれ到底寒さや暑さなど凌げそうにない掘っ立て小屋に住み、私はその環境はアメリカ市民に対して用意するようなものではない大変粗末な環境だなと感じました。もちろんそこでは自由も誇りもない生活を送らざるを得ませんでした。時間が経つにつれて生活環境は徐々に改善されていきましたが、多くの人々の心理的打撃はよくなることはなかったそうです。そこでの扱いというのは、忠誠登録というものの中に「アメリカ軍に志願する意思があるか」「アメリカ合衆国に忠誠を誓い、天皇への忠誠を破棄するか」など明らかに理不尽な質問がありそれにNOと答えるとさらに監視が強い他の強制収容所へと連行されるというものでした。これらの話からも分かるように日本人の血が少しでも流れていたら、たとえアメリカの市民権を持っていようがとても悲惨な日々を送らざるを得なかったのです。私はこの話を聞いて衝撃を受けるとともに二度とこのようなことが起こらないようにと願いました。

しかし、日系一世、二世の人たちのおかげで今の日本人やアメリカに住む日系人があるのだと私は思います。先代の日系人がどんな差別を受けようとも負けずに頑張ってきたことはとても勇敢なことだと思います。日系人のことを学べたことは今回の派遣行事の中で大変有意義なことでした。



★GO FOR BROKE★ monument。日系二世部隊が偏見に負けず欧州・太平洋で比類ない戦果を挙げた事を讃え、自由と権利をはく奪した事への謝罪が明記されている。